

子ども達の絵やメッセージを感じられる場づくり

子どもミュージアムプロジェクト協会

子どもミュージアムプロジェクト協会（宮田博文代表理事）は、すべての人々に子ども達の絵とメッセージを感じてもらえる場づくりに向けて、活動を続ける。子ども達の絵やメッセージをトラックの背面にラッピングすることで事故を一件でも減らして、という思いでスタートした。

同取り組みは、代表理事を務める宮田博文氏の会社で発生した交通死亡事故をきっかけに始まった。子どもミュージアムトラックは「運転士にも見る人にも心のゆとりを取り戻させる」との思いの下、「優しくしたい・世の中を良くしたい」という気持ちを呼び起こさせると考えられている。その考えに共感し、現在は全国で300社以上の企業が参画。ミュージアム号は1100台を超える。

また、教育現場においても「やさしいきもちがみらいをつくる」をコンセプトに交通安全の話をするほか、職業講話として同取り組みについて述べる場も設けている。



2018年からは、大阪府吹田市の万博記念公園お祭りの広場で「子どもミュージアムフェスタ」を開催。コロナ禍では中止したもの、22年に3年ぶりに再開した。大型ミュージアムトラックなど30台を超えるミュージアム号を展示した。25年の大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。同

トラック背面から事故抑制呼び掛け

協会の活動は、交通死亡事故で一つの命が失われたことをきっかけとしており、「たまたま失われた命であっても、その後の向き合い方で『意味』を変えることができる」との思いから、大阪・関西万博でミュージアム号による世界発信を目指す。

【受賞者コメント】

この度は、第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞にて、モビリティ・ソリューション賞と過分なる賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。10年にわたる私どもが活動が、このような場において、交通安全につながる活動だと認めていただけたことは、大変嬉しく、心より感謝申し上げます。今後も、1件でも多く事故削減につなげていけるよう、国内にとどまらず海外も視野に入れ、あらゆる角度から活動を続けて参ります。

